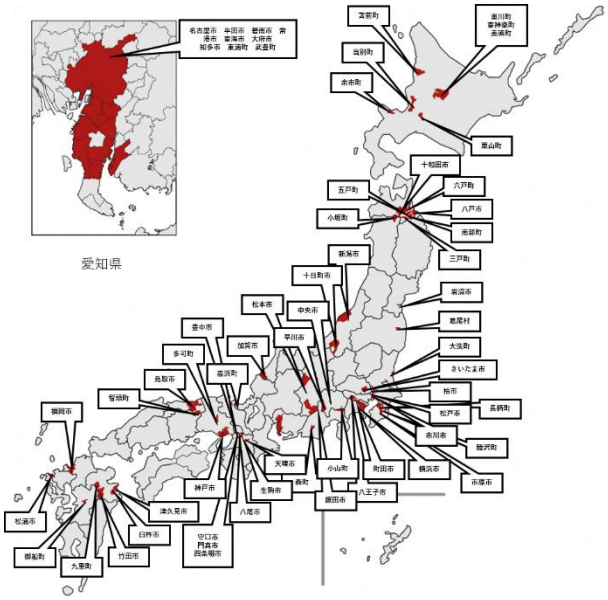
健康とくらしの調査 2019年
地域診断　概要_竹田市

JAGES（Japan Gerontological Evaluation Study，日本老年学的評価研究）は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2019年度には、全国の64市町村と共同し、約37万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査　2019」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

竹田市_健康とくらしの調査概要	
対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
対象者数	3,737人
調査期間	令和元年11月25日～令和元年12月16日
回収数（率）	2,583票（69.1%）
集計数（率）	2,577票（69.0%）*年齢無回答や白票などを除いた
調査方法	サンプリング調査

全参加自治体_健康とくらしの調査概要	
対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	64市町村（56保険者）
対象者数	368,982人
配布回収	郵送法 、一部訪問調査
調査期間	令和元年11月25日～令和2年2月10日
回収数（率）	254,396票（68.9%）
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的 他の市町村と比べた、竹田市の特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法 JAGES2019年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国64市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果 64市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

特徴・強み

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
6	コア:認知症リスク者割合	竹田市	9.8	10	■				2,429	11.4	8.4	23.1
7	コア:物忘れが多い者の割合	竹田市	36.5	6	■				2,363	40.2	35.1	50.6
17	コア:友人知人と会う頻度が高い者の割合	竹田市	75.6	11	■				2,300	71.3	61.2	80.2
18	コア:交流する友人がいる者の割合	竹田市	38.3	5	■				2,308	31.0	20.0	40.5
19	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート受領者割合	竹田市	96.2	4	■				2,330	94.9	92.4	96.9
20	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート提供者割合	竹田市	94.6	8	■				2,299	93.3	89.9	95.4
22	コア:手段的（看病や世話）サポート提供者割合	竹田市	81.1	5	■				2,253	77.9	72.3	82.5
24	コア:ソーシャル・キャピタル得点（連帯感）	竹田市	171.4	10	■				2,376	158.0	135.8	181.1

- コア指標25指標のうち、全国64市町村の中で、竹田市が上位2割に入り、特徴・強みと考えられるのは8指標でした。
- 健康指標は2指標で「認知症リスク者割合」が9.8%と中央値11.4%より低い、「物忘れが多い者の割合」が36.5%と中央値40.2%より低い、でした。
- 「友人・知人と会う頻度が高い者の割合」、「交流する友人がいる者の割合」や「情緒的サポート受領・提供者割合」、「手段的サポート提供者割合」、「ソーシャルキャピタル得点（連帯感）*1」も上位2割以内でした。

*1：ソーシャルキャピタル得点（連帯感）
地域への信頼・愛着・規範（社会のルールを守るかどうか）により採点した得点

課題

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
4	コア:運動機能低下者割合	竹田市	10.9	53	■				2,408	9.0	5.0	16.2
5	コア:１年間の転倒あり割合	竹田市	30.9	52	■				2,379	25.1	21.2	35.4

- コア25指標のうち、全国64市町村の中で、竹田市が下位2割に入り、課題と考えられるのは2指標でした。
- ともに健康指標2指標で「運動機能低下者割合」が10.9%と中央値9.0%より高い、「1年間の転倒あり割合」が30.9%と中央値25.1%より高い、でした。

まとめ

- 特徴・強みは、「認知症リスク者」「物忘れが多い者」が少ないこと、「友人・知人と会う頻度」「交流する友人がいる者」「情緒的・手段的サポート」「ソーシャルキャピタル得点（連帯感）」が多いことでした。
- 一方、課題は、「運動機能低下者」「転倒者」が多いことと考えられます。

特徴・強みや課題と関連する要因

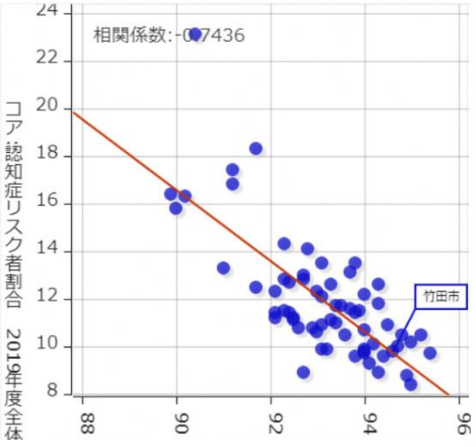
目的 どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法 JAGES2019年度調査に参加した64市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

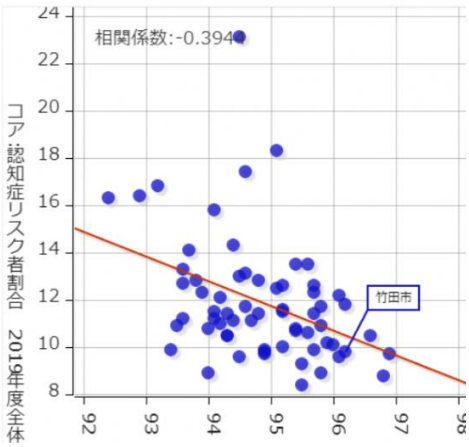
結果 特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがあることがわかりました。

1. 社会的サポート割合が高い市町村では認知症リスク者割合が低い

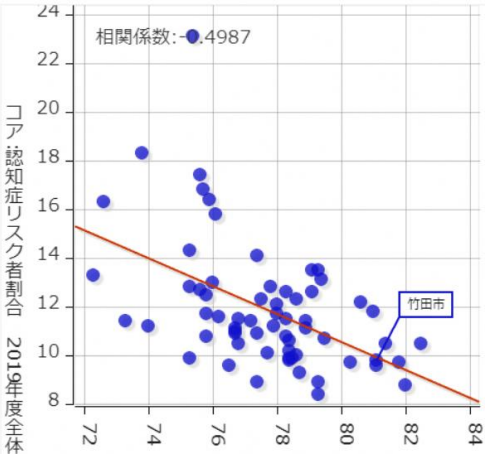
- 社会的サポート割合が高い市町村では、認知機能低下者割合が低い。
- 竹田市は情緒的・手段的サポートといった社会的サポートがある者の割合が高いことが認知症リスク者割合が低いことの一因と考えられ、これらを維持するために、引き続き社会的サポートの割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。



情緒的サポート提供者割合
高齢者全体



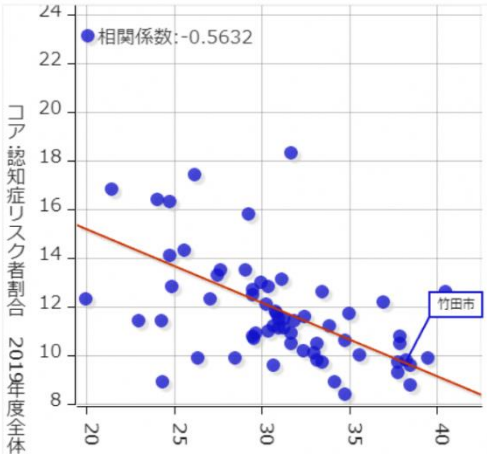
情緒的サポート受領者割合
高齢者全体



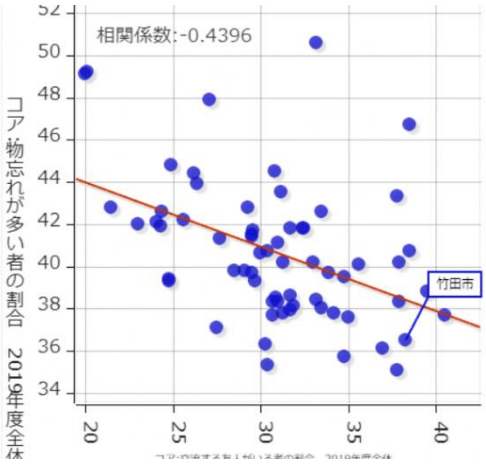
手段的サポート提供者割合
高齢者全体

2. 交流する友人がいる者の割合と認知症リスク・物忘れは相関する

- 交流する友人がいる者の割合が高い市町村では、認知症リスク者割合・物忘れが多い者の割合が低い。
- 竹田市は交流する友人がいる者の割合が高いことが認知症リスク者割合・物忘れが多い者の割合が低いことの一因と考えられ、これらを維持するために、引き続き、交流する友人の割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。



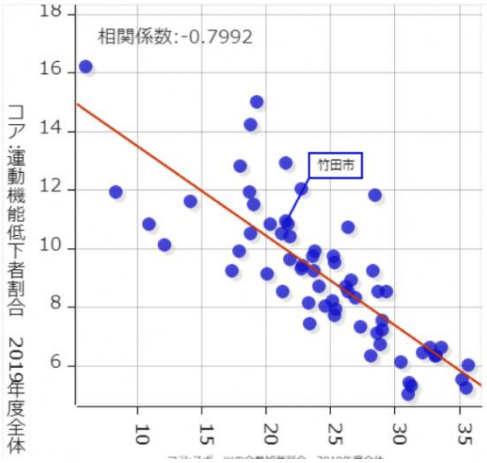
交流する友人がいる者の割合
高齢者全体



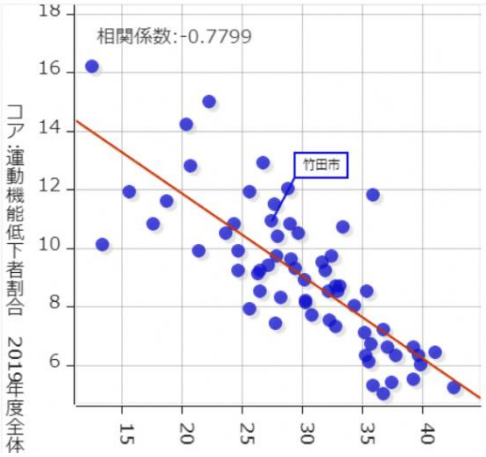
交流する友人がいる者の割合
高齢者全体

3.　スポーツ・趣味の会参加者割合が高い市町村で運動機能低下者・転倒者割合が低い

- スポーツ・趣味の会参加者割合が高い市町村では、運動機能低下者・転倒者割合が低いという相関がみられます。
- これらの相関から、スポーツ・趣味の会を参加者を増やすことで、竹田市の課題である運動機能低下・転倒などの改善が期待できると考えられます。



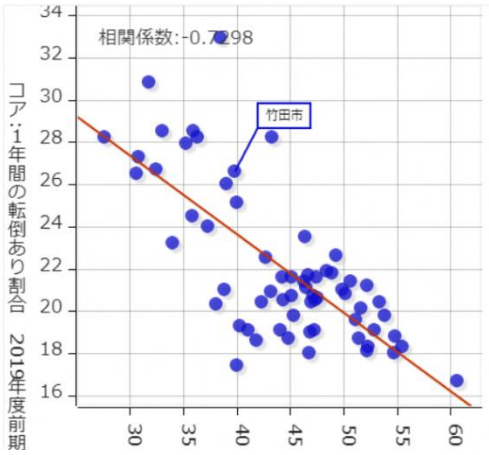
スポーツの会参加者割合
高齢者全体



趣味の会参加者割合
高齢者全体

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
全体	コア:スポーツの会参加者割合	竹田市	21.6	46					1,828	25.0	6.1	35.8
全体	コア:趣味の会参加者割合	竹田市	27.5	44					1,845	30.3	12.6	42.6
前期	コア:スポーツの会参加者割合	竹田市	16.0	56					1,071	23.6	8.4	36.6
前期	コア:趣味の会参加者割合	竹田市	23.3	46					1,087	28.7	12.7	40.2
後期	コア:スポーツの会参加者割合	竹田市	29.7	21					755	27.7	3.7	38.5
後期	コア:趣味の会参加者割合	竹田市	33.5	34					756	34.4	10.8	45.8

- 竹田市では、特に前期高齢者においてスポーツ・趣味の会参加者割合が低くなっています
- スポーツ・趣味の会への年数回以上の参加からでも運動機能低下や転倒と相関がみられます
- 前期高齢者においては、年数回のスポーツ・趣味の会への参加割合を高めることも有効かもしれません
- 交流する友人が多く、友人・知人と会う頻度が高いという竹田市の強みを生かし、スポーツ・趣味の会参加割合を高めることが課題解決につながる可能性があります



スポーツ・趣味の会年数回以上参加割合
前期高齢者

まとめ

- 竹田市の強みである認知症リスク者・物忘れ割合の低さと社会的サポート割合の高さ、交流する友人の多さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望まれます。
- 竹田市は、運動機能低下者・転倒者割合が高いという健康課題があり、スポーツ・趣味の会参加者割合と相関を認めました。
- 竹田市では、前期高齢者でスポーツ・趣味の会参加者割合が低く、まずは前期高齢者における年数回のスポーツ・趣味の会への参加者割合を高めることが有効かもしれません
- 竹田市の強みであるネットワークの強さを生かし、スポーツ・趣味の会の参加者割合を高めることが課題解決につながる可能性があります

市町村内比較から探る重点支援対象地域

目的 課題だと分かった指標について、竹田市内の小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点支援対象地域を明らかにすることを目的としました。

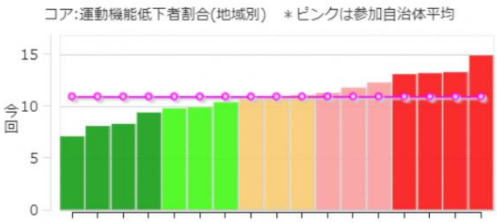
方法 自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

結果 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

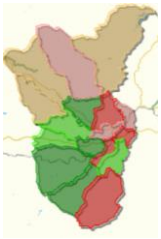
1. 運動機能低下者割合の小地域比較

- 運動機能低下者割合には、7.1～14.9％の小地域間差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、嫗岳、明治、玉来、竹田、後期高齢者では、宮砥、白丹、直入、都野でした。

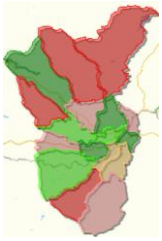
全年齢高齢者



前期高齢者



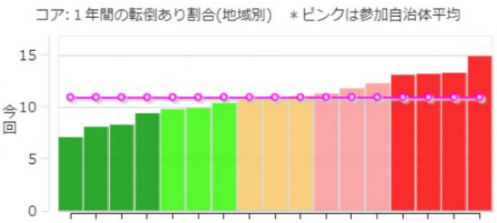
後期高齢者



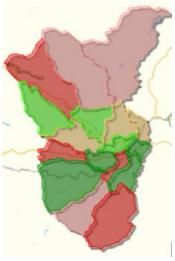
2. 1年間の転倒あり割合の小地域比較

- 1年間の転倒あり割合には、23.6～37.2％の小地域間差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、久住、嫗岳、玉来、菅生、後期高齢者では、岡本、白丹、菅生、都野でした。

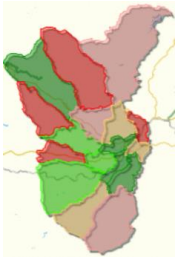
全年齢高齢者



前期高齢者



後期高齢者



運動機能低下者割合				1年間の転倒あり割合			
前期		後期		前期		後期	
1	嫗岳 9.4%	1	白丹 27.8%	1	嫗岳 34.9%	1	都野 46.0%
2	明治 9.3%	2	直入 21.6%	2	菅生 32.9%	2	白丹 41.7%
3	玉来 7.9%	3	宮砥 21.5%	3	久住 31.6%	3	菅生 41.5%
4	竹田 7.0%	4	都野 21.5%	4	玉来 30.3%	4	岡本 41.4%

まとめ

- 竹田市の健康課題である運動機能低下者割合には、2.1倍、転倒者割合には1.6倍の小地域間差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかり、2つ以上の重点支援対象地域となったのは、前期では嫗岳、玉来、後期では都野、白丹でした。
- 菅生は前期・後期ともに転倒者割合が高い地域でした。

市町村内比較から探る改善の手がかり

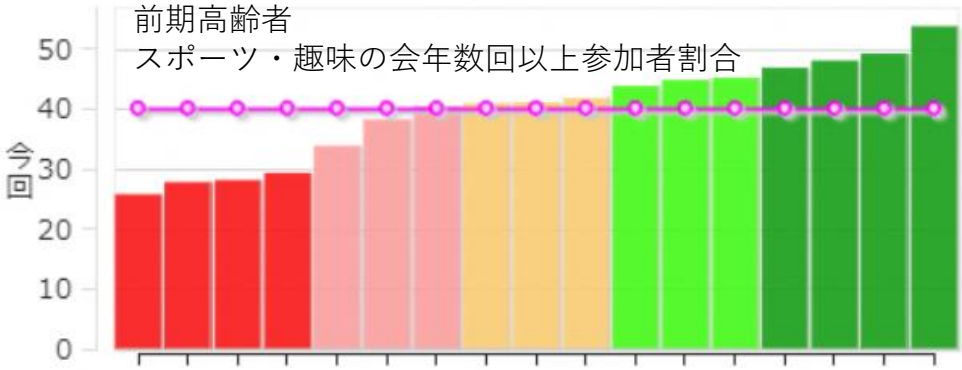
目的 多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

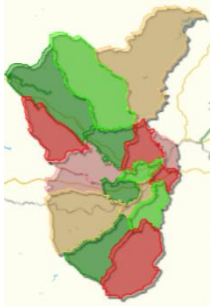
方法 市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果 市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

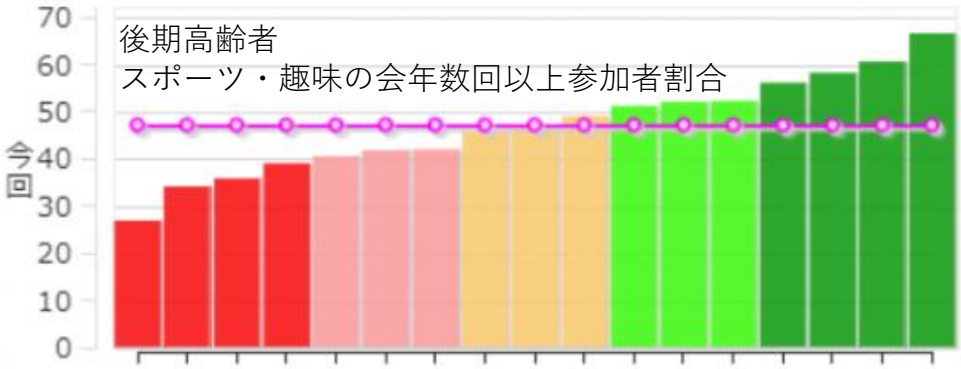
1. スポーツ・趣味の会参加割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

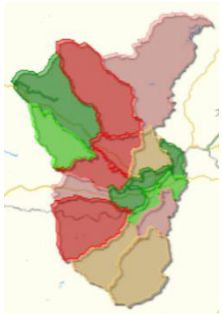
- スポーツ・趣味の会年数回以上参加者割合は、前期高齢者に限定しても、25.8～53.8%の小地域間差があった。
- 前期高齢者の重点支援対象地域は、明治（25.8%）、嫗岳（27.8%）、白丹（28.2%）でした。
- 手がかりは、宮砥（53.2%）、久住（49.2%）、城原（48.1%）など





- スポーツ・趣味の会年数回以上参加者割合は、後期高齢者では、27.8～66.7%の小地域間差があった。
- 後期高齢者の重点支援対象地域は、宮城（27.0%）、荻（34.2%）、都野（35.9%）でした。
- 手がかりは、久住（66.7%）、岡本（60.6%）、松本（58.3%）など





2. グループ活動への参加意向がある者は5割以上、企画・運営の意向がある者は4割以上

- 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、い きいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、64市町村間で比べると竹田市は高く57.2％でした。
- さらに企画・運営（お世話役）としての参加の意向がある者の割合も、41.5%となっていました。

高齢者全体

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
44	重要:グループ活動へ参加意向がある者の割合	竹田市	57.2	17					2,086	53.9	44.4	63.0
45	重要:グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	竹田市	41.5	19					2,041	38.1	28.5	50.2

- 前期高齢者で課題である運動機能低下者・転倒割合が高く、課題と関連するスポーツ・趣味の会年数回以上参加割合が低い重点対象地域は、嫗岳でした。
- 嫗岳の前期高齢者においては、グループ活動への参加意向がある者は61.0%、企画・運営（お世話役）としての参加以降がある者の割合は43.1％となっていました。

前期高齢者

No	指標名	小地域名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
44	重要:グループ活動へ参加意向がある者の割合	嫗岳	61.0	3					59	57.4	42.4	67.1
45	重要:グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	嫗岳	43.1	8					58	42.4	27.0	57.1

- 後期高齢者で課題である運動機能低下者・転倒割合が高く、課題と関連するスポーツ・趣味の会年数回以上参加割合が低い重点対象地域は、都野でした。
- 都野の後期高齢者においては、グループ活動への参加意向がある者は51.0%、企画・運営（お世話役）としての参加意向がある者の割合は37.3％となっていました。

後期高齢者

No	指標名	小地域名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
44	重要:グループ活動へ参加意向がある者の割合	都野	51.0	15					51	53.3	48.3	74.0
45	重要:グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	都野	37.3	10					51	39.5	31.7	53.2

- このような人たちに集まっていただき、既存のグループ活動への支援や新たなグループ活動の立ち上げについて検討すれば、スポーツや趣味の会などのグループ活動が増え、運動機能低下や転倒が少ない竹田市づくりを進められると期待できます。

まとめ

- スポーツ・趣味の会年数回以上参加割合が高いまちで運動機能低下・転倒割合が低いことから、健康課題の克服のための手がかりは、スポーツ・趣味の会参加者が多い地域から得られると期待できます。
- 前期高齢者では、宮砥、久住、城原など、後期高齢者では、久住、岡本、松本などの地域で、そこにスポーツ・趣味の会参加者を増やす手がかりがあると考えられます。
- グループ活動の企画・運営に参加意向を示す高齢者が4割いました。

竹田市の地域診断　概要　2019

JAGES「健康とくらしの調査2019」に参加した64市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1　市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは、「認知症リスク者」「物忘れが多い者」が少ないこと、「友人・知人と会う頻度」「交流する友人がいる者」「情緒的・手段的サポート」「ソーシャルキャピタル得点（連帯感）」が多いことでした。
- 一方、課題は、「運動機能低下者」「転倒者」が多いことと考えられます。

2　特徴・強みや課題と関連する要因

- 竹田市の強みである認知症リスク者・物忘れ割合の低さと社会的サポート割合の高さ、交流する友人の多さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望まれます。
- 竹田市は、運動機能低下者・転倒者割合が高いという健康課題があり、スポーツ・趣味の会参加者割合と相関を認めました。
- 竹田市では、前期高齢者でスポーツ・趣味の会参加者割合が低く、まずは前期高齢者における年数回のスポーツ・趣味の会への参加者割合を高めることが有効かもしれません。
- 竹田市の強みであるネットワークの強さを生かし、スポーツ・趣味の会の参加者割合を高めることが課題解決につながる可能性があります。

3　市町村内比較から探る重点対象地域

- 竹田市の健康課題である運動機能低下者割合には、2.1倍、転倒者割合には1.6倍の小地域間差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかり、2つ以上の重点支援対象地域となったのは、前期では嫗岳、玉来、後期では都野、白丹でした。
- 菅生は前期・後期ともに転倒者割合が高い地域でした。

4　市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- スポーツ・趣味の会年数回以上参加割合が高いまちで運動機能低下・転倒割合が低いことから、健康課題の克服のための手がかりは、スポーツ・趣味の会参加者が多い地域から得られると期待できます。
- 前期高齢者では、宮砥、久住、城原など、後期高齢者では、久住、岡本、松本などの地域で、そこにスポーツ・趣味の会参加者を増やす手がかりがあると考えられます。
- グループ活動の企画・運営に参加意向を示す高齢者が4割いました。

発行　日本老年学的評価研究機構（2020.9）